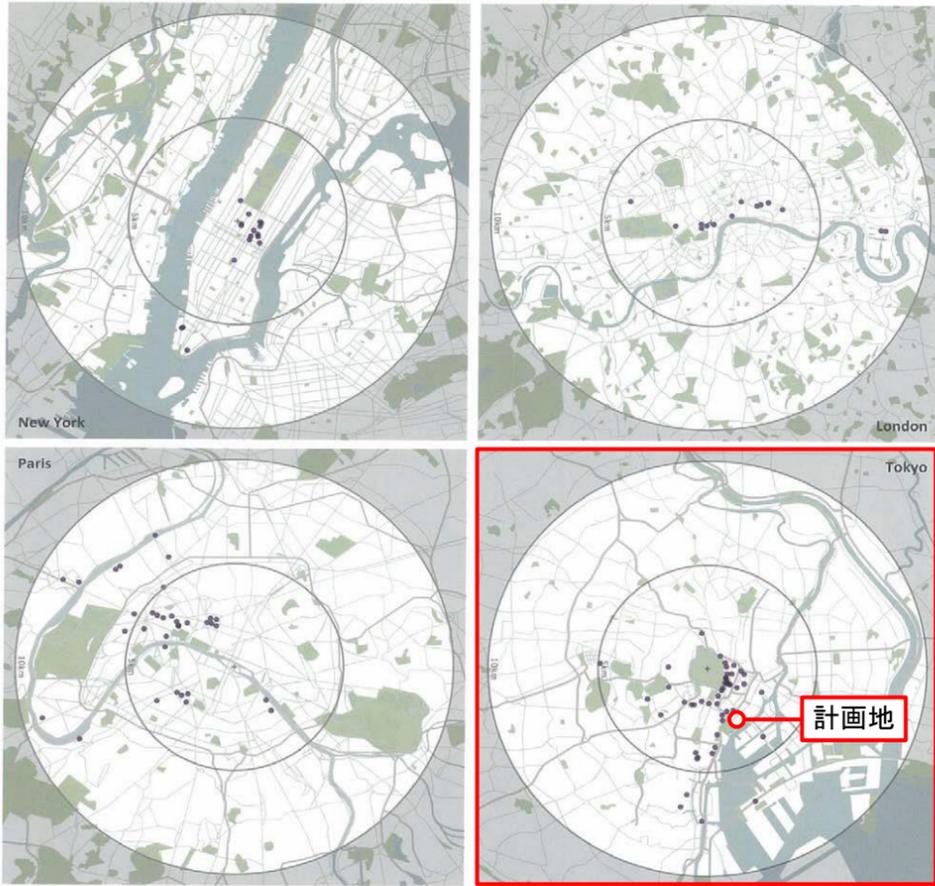


海外都市と比較した東京について(既往調査結果)1/2

「平成25年度築地地区まちづくり調査検討業務委託報告書」の内容を抜粋・一部加工



ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京の世界トップ企業※の立地状況



各都市の企業数(左)・売上(右)

※世界トップ企業：2008年において売り上げの多かった世界のトップ500社

【東京都心部の特徴】

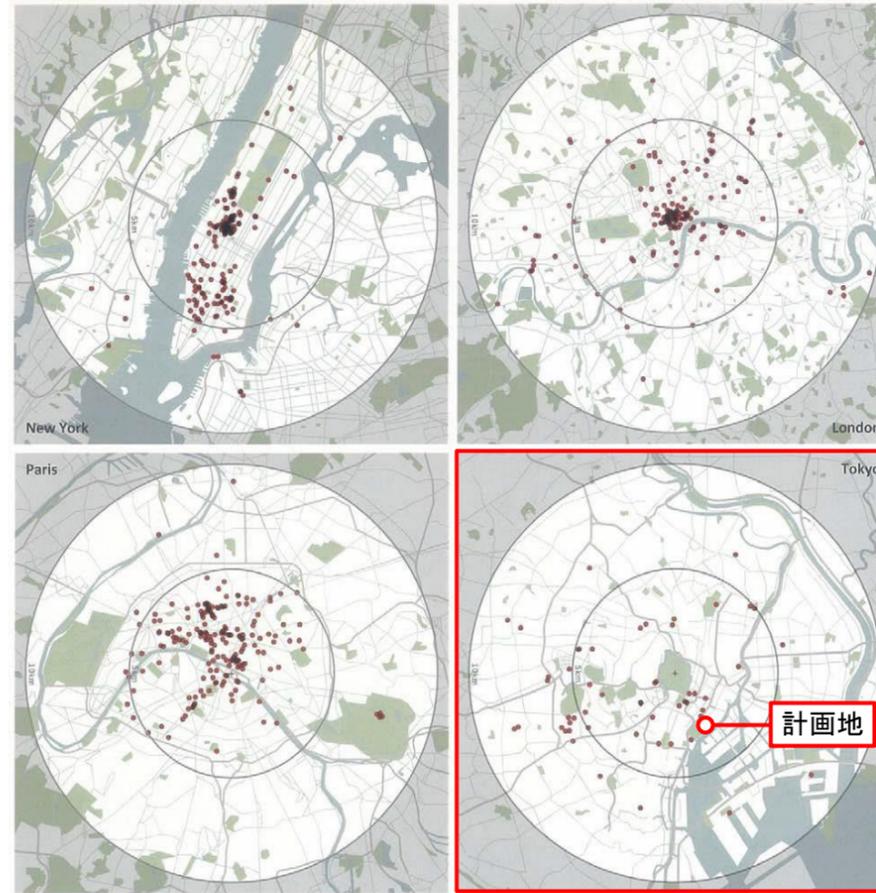
- 世界トップ企業の立地数が8都市中、最も多い状況にあり、海外都市に比べ、高い優位性を有している

【計画地の特徴】

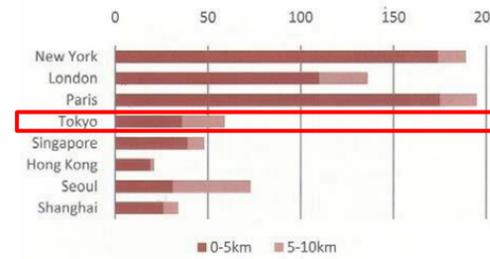
- 近傍の新橋・汐留において、世界トップ企業の立地がある

【整理・分析】

- 民間開発の適切な誘導により、海外都市と比較して十分に競争力のあるビジネス環境の整備は可能と考えられる
- ただし、品川駅周辺エリアや新橋・虎ノ門・六本木エリアといった、民間事業者を中心に今後大規模なまちづくりが進展するエリアと比べると、交通利便性の面で、計画地のビジネス環境としての競争力は劣ると考えられる。



ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京の劇場・コンサートホールの立地状況



各都市の劇場・コンサートホール数

【東京都心部の特徴】

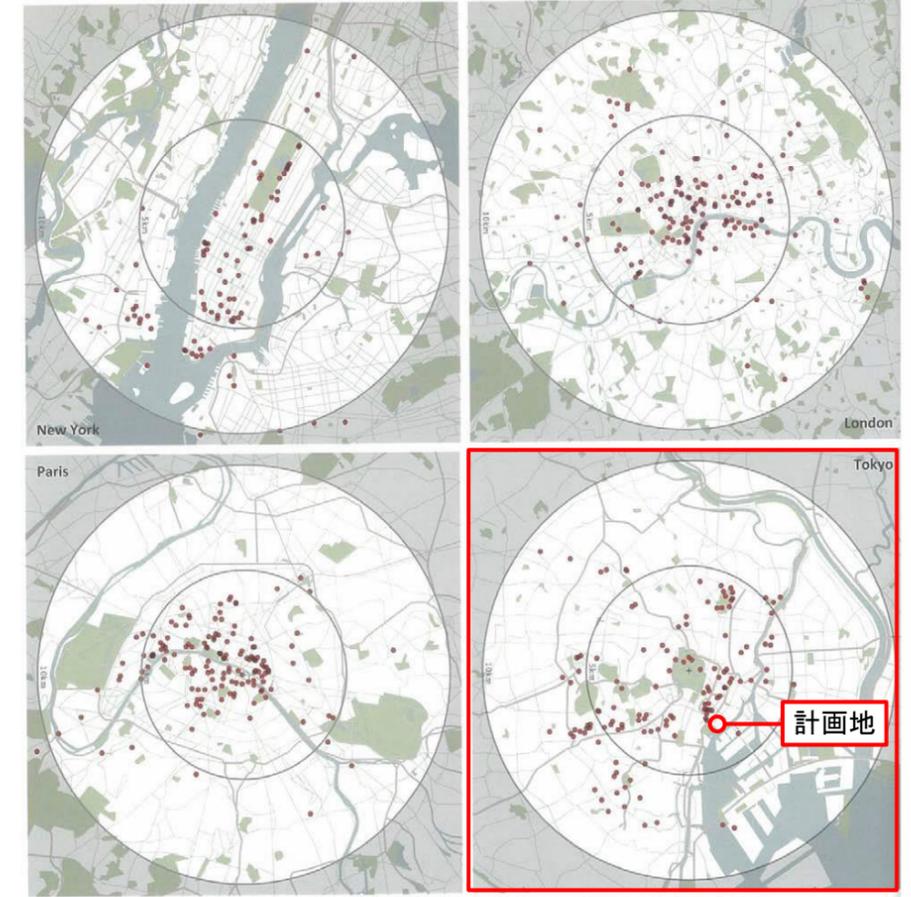
- 劇場・コンサートホールの立地数については、ニューヨークやパリの1/3程度しかなく、同じアジア圏のソウルと比べても下回る
- 美術館・博物館については、施設数はトップクラスであるが、一方で、海外都市の年間来場者数がトップクラスの美術館・博物館と比較すると、施設の集客力は劣っている

【計画地の特徴】

- 計画地周辺には、一定の劇場・コンサートホールの集積(歌舞伎座、新橋演舞場、浜離宮朝日ホール等)があり、また、有楽町・銀座などで、美術館・博物館が多数立地しているなど、幅広い文化・芸術関連の施設がまとまって立地

【整理・分析】

- 周辺地域と連携することで、東京の弱みと考えられる文化・芸術分野の強化に資するまちづくりを展開可能な特性を有していると考えられる。



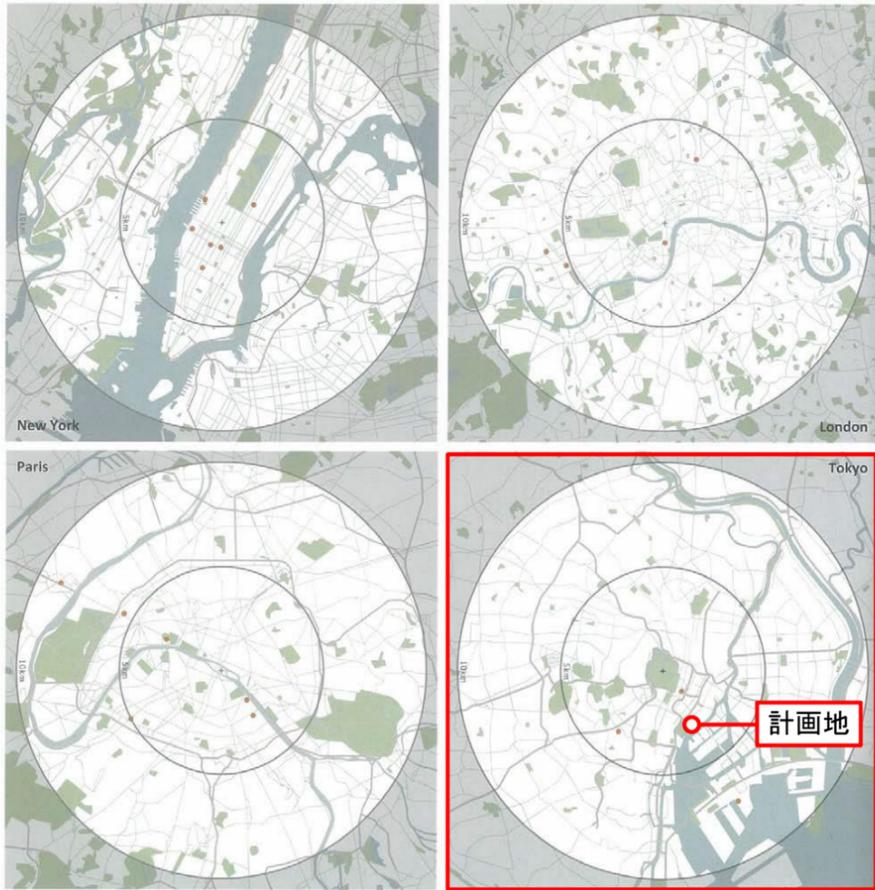
ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京の美術館・博物館の立地状況



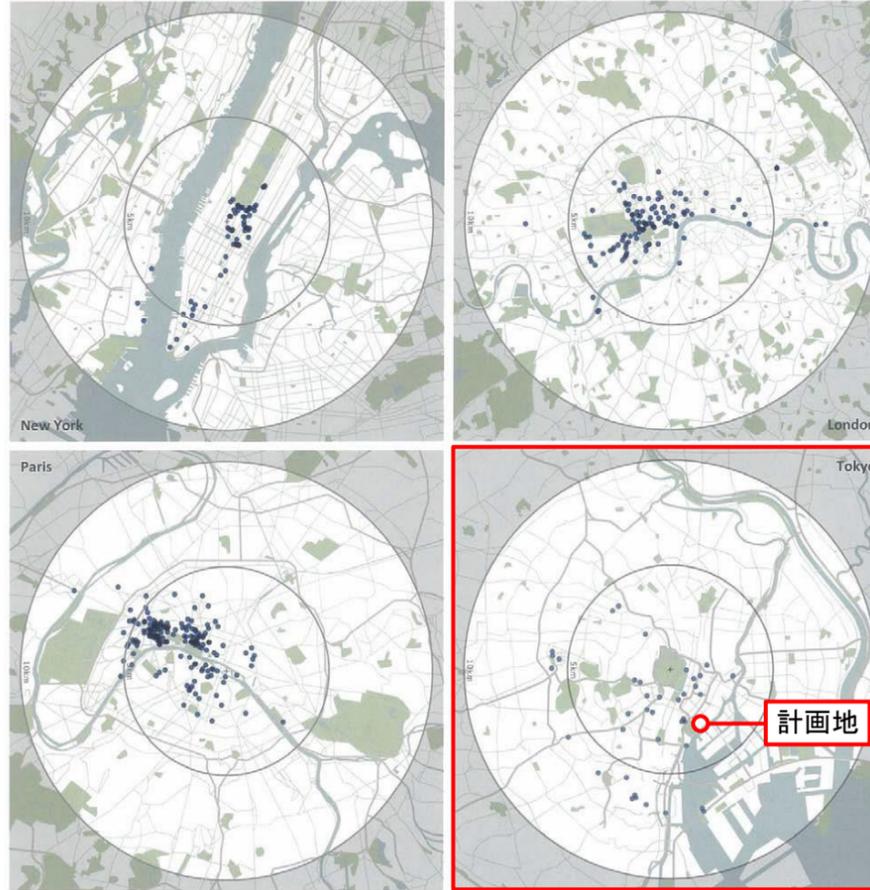
各都市の美術館・博物館数(左)・年間来場者数トップ比較(右)

海外都市と比較した東京について(既往調査結果)2/2

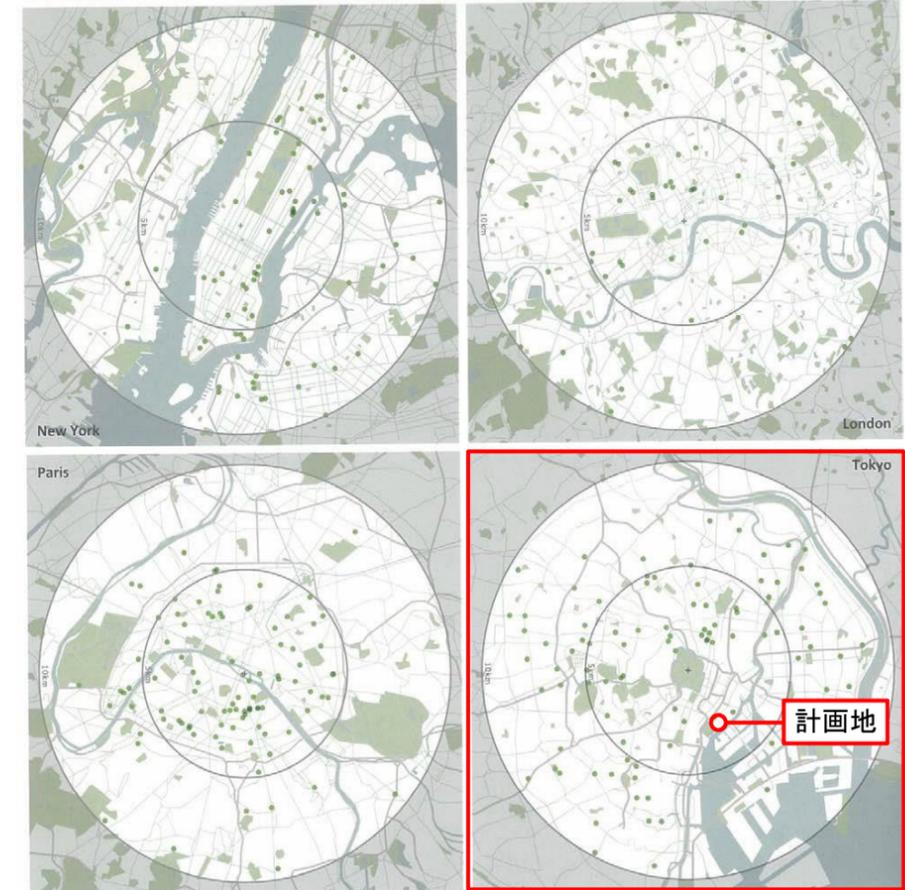
「平成25年度築地地区まちづくり調査検討業務委託報告書」の内容を抜粋・一部加工



ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京のコンベンション・センターの立地状況



ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京の5つ星ホテルの立地状況



ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京の総合病院の立地状況



各都市のコンベンション・センター数(左)・展示面積(m²)(右)



各都市の5つ星ホテル数(左)・客室数(右)



各都市の総合病院数(左)・病床数(右)

【東京都心部の特徴】

- ・コンベンション・センターの施設数は8都市中5位で、展示面積も上位都市には及ばず、競争力のある十分なスペックを有した施設が不足
- ・東京都心部の5つ星ホテルの施設数及び0-5km圏の客室数は、8都市中最下位であり、富裕層の観光ニーズに十分対応できていない

【計画地の特徴】

- ・晴海通りと将来整備される環状2号線といった、東京国際フォーラムや東京ビッグサイトなど、東京を代表するコンベンション・センターを繋ぐ動線上に立地
- ・計画地近隣の汐留には、5つ星ホテルの一定の集積が見られ、また、銀座には、トップ・レストランやブランド・ショップなどの集積度が都内で最も高く、特に、富裕層をターゲットとした観光・交流の面において、高い優位性を有していると考えられる

【整理・分析】

- ・計画地は、東京を代表するコンベンション・センターを繋ぐ動線上に立地していることから、MICE関連機能を拡充する新しい拠点など、東京の弱みと考えられる交流分野の強化に資するまちづくりの方向性が考えられる
- ・また、計画地は、それに付随するアフターコンベンションなどを十分に楽しめる周辺環境が整っている

【東京都心部の特徴】

- ・東京都心部全体に総合病院がバランスよく配置されているが、人口増加が顕著な臨海副都心において、施設数が少ない

【計画地の特徴】

- ・都心部と臨海副都心を結ぶ動線上に立地しており、近傍には、聖路加病院や国立がん研究センター中央病院など、高度医療を提供する医療機関が立地

【整理・分析】

- ・都心部と臨海副都心を結ぶ動線上に立地しており、臨海副都心において不足する医療サービスを提供するような環境整備が考えられる
- ・観光地としての現在の築地のポテンシャルを活かしながら、周辺に立地する高度医療機関との連携を図り、観光と医療が連携する新しいまちづくりの方向性の可能性が考えられる